

九度山・真田ミュージアム開館10周年記念 令和8年度企画展「徹底比較!真田兄弟」第二期

九度山・真田ミュージアム（以後、「ミュージアム」という。）は、平成 28 年にNHK大河ドラマ「真田丸」が放送されたことを契機として、九度山町ゆかりの戦国武将である真田昌幸・幸村・大助の真田三代の歴史や生涯をたどる施設として平成 28 年 3 月 13 日に開館し、常設展示に加え、毎年企画展を開催しています。

令和 8 年度の企画展は、当館開館 10 周年記念と銘打ち、「徹底比較!真田兄弟」を開催しています。戦国時代から安土桃山時代、さらに江戸時代初期にかけて活躍した真田家の兄弟、真田信幸（信之）と真田信繁（幸村）に焦点を当て、真田兄弟それぞれの生涯、二人の名前の変遷、両者の官位、妻の出自、関ヶ原合戦と大坂の陣におけるそれぞれの立場などを多角的に取り上げ、関連資料やパネル展示等で紹介する内容になっています。

9 月 2 日（水）に開幕した第二期においては、大坂夏の陣の際、真田幸村軍に追われた徳川家康を匿い助けた河内国渋川郡竹湊村（現在の大阪府八尾市竹湊）の庄屋塩川家が、徳川家康より感謝の意を込めて贈られた「葵紋付茶碗」（大阪府八尾市・塩川邦彦氏蔵）、大坂夏の陣の直後に京都や大坂で売り出され、かわら版（新聞）の嚆矢といわれる「大坂安部之合戦之図」（阿倍王子神社蔵）などを期間限定で特別展示します。

なお、「葵紋付茶碗」は、平成 18 年（2006）に大阪城天守閣で開催された大阪城・上田城友好城郭提携締結記念「特別展 真田幸村と大坂の陣」以来、実に 20 年ぶりの公開となります。

九度山・真田ミュージアム令和 8 年度企画展情報

【タイトル】『徹底比較!真田兄弟』第二期

【開催期間】令和 8 年 9 月 2 日（水）～令和 9 年 3 月 28 日（日）

【開館時間】9 時 00 分～17 時 00 分（最終入館受付 16 時 30 分まで）

【定休日】月・火曜日（祝日の場合は開館し、翌平日が休館）

第二期特別展示

【展示資料】・葵紋付茶碗（徳川家康より塩川家拝領） 1 口 大阪府八尾市・塩川邦彦蔵

・大坂安部之合戦之図 1 枚 阿倍王子神社蔵

・錦絵「大坂平野合戦真田幸村地雷火をもつて関東の大軍を破る」（歌川芳虎画）

3 枚続 上田市立博物館蔵

・錦絵「幸村、巡見中の家康を追い詰める」（月岡芳年画）3 枚続 上田市立博物館蔵

・錦絵「幸村芦叢へ忍ぶ図」（尾形月耕画）

3 枚続 上田市立博物館蔵

【展示期間】令和 8 年 9 月 30 日（水）～令和 8 年 11 月 29 日（日）



この資料についてのお問い合わせは、

九度山町役場産業振興課（担当：田村）

TEL：0736-54-2019

第二期特別展示資料紹介①

【展示資料】 葵紋付茶碗（高さ 55mm×口径 107mm）1 口 大阪府八尾市・塩川邦彦氏蔵

【展示期間】 令和 8 年 9 月 30 日（水）～令和 8 年 11 月 29 日（日）

【資料説明】 慶長 20 年（1615）5 月 6 日に行われた大坂夏の陣道明寺合戦では、午前中の緒戦で、徳川方の大軍を一手に引き受けた豊臣方の後藤又兵衛が大奮戦の末、壮絶な討死を遂げたものの、同日午後の後半戦では、真田幸村・毛利勝永・明石全登をはじめとする諸将で構成される豊臣方が、石川を渡って進軍してくる徳川方を迎撃し、真田幸村は誉田村（大阪府羽曳野市誉田）で伊達政宗隊と激突して、優勢に戦いを進めた。ところが、同日に行われた八尾・若江合戦で、木村重成が討死し、豊臣方が敗れたとの報が大坂城に伝わり、全軍に退却命令が伝えられたため、真田幸村は殿軍を務め、古市街道を大坂城へと取って返した。途中、幸村は志紀長吉神社（大阪市平野区长吉長原）で戦勝祈願をし、六連銭紋軍旗と刀剣を奉納したと伝え、軍旗は今も同社に現存する。

さらに古市街道を大坂城へと戻る幸村は、堺と並ぶ「自治都市」「環濠都市」として有名な平野郷（大阪市平野区）で、この道を進んで来る徳川家康を討ち取るため、一計を案じたと伝えられる（『平野郷町誌』『大阪府全志』ほか）。

平野郷には、外部との出入口が 13 ヶ所あり、それぞれに地藏堂が建てられていたが、その内、古市街道が平野郷に入る樋尻口の地藏堂に幸村は地雷火を仕掛け、周囲に伏兵を置いた。幸村の予想どおり家康が進軍して来、地雷火が爆発したものの、家康は辛くも難を逃れ、幸村の伏兵に追われた家康は平野郷の東に隣接する竹渕村の庄屋塩川家の藪の中に隠れた。そして、竹渕村の人々に助けられた家康は、百姓姿に身をやつして肥舟に乗り、平野川を通過して脱出したという。

本品は、これに感謝した家康が塩川家に贈ったものと伝えられる。同家には、昭和 6 年の国鉄（現在の J R）城東貨物線南線の敷設によって屋敷地が狭められるまで、家康が馬を繋いだという楠の大木も遺されていた。近年まで、敷地内に「往古奉御馬繋楠之大木跡」と刻まれた石碑が建っていたが、石碑は令和元年（2019）に竹渕神社境内に移された。



葵紋付茶碗

第二期特別展示資料紹介②

【展示資料】大坂安部之合戦之図（縦 397mm×横 267mm）1 枚 阿倍王子神社蔵

【展示期間】令和 8 年 9 月 30 日（水）～令和 8 年 11 月 29 日（日）

【資料説明】大坂夏の陣の直後に、京都や大坂で合戦の様子を速報するかわら版が売り出され、これがわが国におけるかわら版（新聞）の嚆矢とされる。「大坂卯年図」と「大坂安部之合戦之図」の 2 種類があり、本品はその内の後者である。

右上方に大坂城があり、炎上する天守の脇に、「秀頼様」「御袋様（淀殿）」ら大坂城と運命をともにした豊臣家の人々の名が記され、下段には「将軍様（秀忠）」「御所様（家康）」をはじめとする徳川方諸将の名が記される。惣構の矢来の中では、衣服を脱いで差し出し、命乞いをする女性など、戦争に巻き込まれた哀れな庶民の姿が描かれ、矢来の外側では豊臣・徳川両軍による激闘が展開されている。「天王寺」という文字の左脇に、鹿角の兜を被って、馬に乗る武将が描かれるが、これが真田幸村で、「さなだ」の表記がある。

幕臣で狂歌師・戯作者として著名な大田南畝（蜀山人、1749～1823）は文化 8 年（1811）2 月付で、「大坂落城瓦板」の識語に「これは慶長二十年乙卯五月、大坂のおちいれるかたを絵がきてうりあるきしものなるべし」（『大田南畝全集』19 卷）と記し、肥前平戸藩主の松浦静山（1760～1841）が著した『甲子夜話』には、「先年浪華にて蒹葭堂を訪しとき、版刻の一小紙を見る。主人曰、これは大阪御陣のとき御陣場の辺を売あるき、従軍の卒など買求めしものよと云ふ。（中略）これは平野、堺などを専ら売歩しと云ふ。もと大小二幅ありと聞く。今印出のものは小幅の方なり」と記され、この「大坂安部之合戦之図」が掲出されるが、後世の偽作説も根強い。ただ、大坂冬の陣の和睦から夏の陣勃発までの間に出版された古活字版仮名草子の軍記物語『大坂物語』には、同種のかわら版「大坂城之画図」が綴じ込まれていることから、もともとは一枚刷りのかわら版ではなく、大坂夏の陣終了後まもなく刊行された『大坂物語』下巻の付図だったのではないかとする見解も提出されている。



大坂安部之合戦之図